

## 式 辞

東に仰ぐ高輪の峰は明るく霞み、西に臨む鹿島の海は穏やかに風ぐこの春の日に、来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席のもと、令和六年度愛媛県立北条高等学校第七十五回卒業証書授与式を挙行することができますことを、心からうれしく有り難く思っております。

風早の豊かな自然の懐に抱かれた北条高等学校の学び舎から巣立つ卒業生の皆さん、卒業おめでとう。そして、十八年にわたって、彼らを守り、育て、慈しんでこられた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。御卒業おめでとうございます。また、日々彼らを支え、励まし、導いてこられたご家族と関係者の皆様に、深く敬意を表し感謝を申し上げます。ありがとうございました。

卒業生の皆さんが本校で過ごした三年間には、感染症対策が最優先だったウィズコロナの一年次の学校生活から、感染法上五類に移行し、コロナ禍直後の生活を模索したアフターコロナの二年次の学校生活へ、さらに、コロナ禍を経た新しい価値観の創造を試みる、ポストコロナの三年次の学校生活へと、三段階の大きな変化がありました。

こうした社会や学校生活の変化に加えて、青年期にある皆さん一人一人の心と体にも、大きな成長と変化があったことと思います。また、家族や友達との人間関係の変化もあったことでしょう。その成長と変化の中で、戸惑いや悩みや苦しみを経験し、それらに向き合ったり、乗り越えたり、時には諦めかけたり、やり過ぎたりしながら、それでも前を向いて、一日一日歩みを重ねて今日の日を迎えているのではないかと想像します。

そうやって皆さんが取り組み、引き受けてきた経験や苦勞の分だけ、きっと皆さんの心と体は、たくましく、しなやかに成長していることと思います。どうか自分自身の内にある経験と身に付けた力を自覚し、誇りを持ち、それを信じて進んでほしいと願います。

さて、これから皆さんが向かう社会は、高校までの学校中心の生活よりも多様で、複雑で、雑多な情報にあふれています。そこには、大きな選択から日々の小さな選択まで、様々な選択の場面があります。皆さんは、自分の判断で一つ一つの選択をしながら生きていくことになります。

私は、この先、皆さんが選択の場に直面した時に、良い選択をして良い人生を生きてほしいと願っています。私が考える良い選択とは、自分にとっての本当の価値や本当の意味のある選択です。決して、得をすることや、すぐに手に入ることや、無駄のないことにだけ重きを置く選択ではありません。良い選択に必要なのは、急ぎすぎず、じっくりと、解決できないことでも粘り強く考え続けられる力、すなわち「想像し続ける」力だと思っています。卒業生の皆さんには、良い選択のための「想像し続ける」力を持って生きてほしいと思います。

忙しい社会の中では、待たなくてすむことや損をしないことが重んじられます。時間が掛からず手軽な選択がスマートな生き方のように見えることが多いと思います。しかし、私は、人にとって大事なことは、効率や損得を超えた価値や意味を、「想像し続ける」ことだと思っています。私が皆さんに度々伝え続けてきた、『人』を想い、自分を磨く」という言葉には、急ぎすぎず、じっくりと人と向き合い「想像し続ける」ことの意味が含まれています。卒業した後も、あなたに関わる人のことを想像し続け、あな

た自身のことを大切に思い続け、あなたの持ち味を磨き続けていってほしいと、心から願っています。

最後に、卒業生の皆さん、北条高等学校は、あなたたちの母校であり、味方であり、支えであり続けます。私たち教職員は、皆さんをずっと心の中で応援し続けています。

旅立ちを迎える皆さんの明日からの人生に、幸多からんことを心から祈念し、第七十五回卒業生の門出を祝して、式辞といたします。

令和七年三月一日

愛媛県立北条高等学校 校長 渡邊 俊